

クマの頭部は、球形からはじめる。次に、シンプルな鼻口部を付ける。このように、シンプルな形から描き始めると、どんな角度からでもクマの頭部を描ける。





Donor R.



グリズリーベアの肩には
大きい筋肉がついていて、
後ろから見ると、背中が大きく
盛り上がっている。これがグリ
ズリーの特徴の1つだ。



グリズリーは、足裏全体を付けて歩く、いわゆる
蹠行（しやく）性の動物だ。つまり、人間と同じ
ように、クマも後ろ足のかかとを地面につけて歩く。

グリズリーは、人間と同じく、体格は
それぞれ異なる。1年のうちの時
期や、生まれ住む地域によっても
異なる。秋の暮れになると、ク
マは太る。春から夏にかけて、
食べ物をたっぷり摂り、冬眠に
そなえるからだ。

また、海岸近くに住み、サーモンをたら
ふ食べるクマは、内陸の同種のクマ
たちの2倍にも育つ。魚に含まれる
豊富なタンパク質と脂肪のおかげだ。



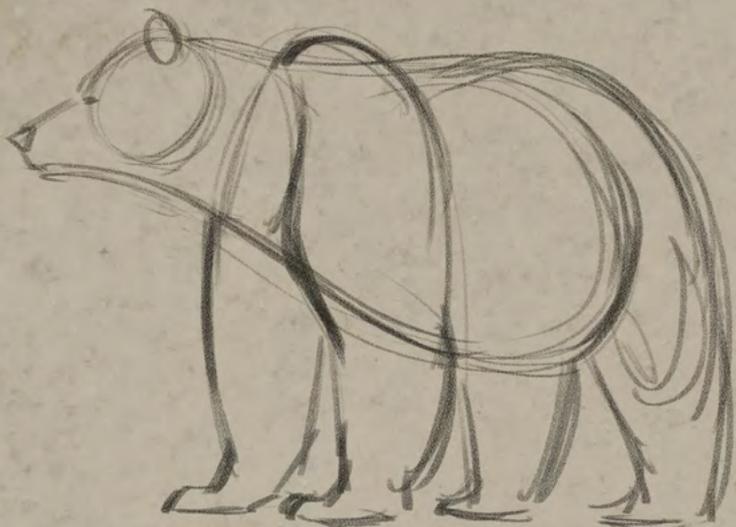
人間の子供もそうだが、グリズリーの子供も元気いっぱいだ。一日中、探検をして過ごす。じゃれているつもりが、そのうちケンカになる。

以下の画像を1つずつ、付箋紙の端に写し取ると、子グマのパラパラマンガができる!



若いグリズリーは、人間の赤ん坊と同じように、赤ちゃん特有のプローションをしている。体に比べて頭部は大きく、まるまると太った短い脚がついている。これが愛らしく見える原因だ! また、グリズリーの子供の首元には白い毛が生えていて、年を取るとだんだんと消えていく。





1. 最初は、トーンペーパーに大まかな形を軽く描くことから始める。頭部、首のラインが流れるように体につながっているところを見てほしい。肩と脚を加えるのは、その次の手順だ。



2. ラフスケッチをガイドとして、顔面のパーツを描き入れ、毛の質感を足していく。



3. 詳細を描き入れる。クマはやさしい性質で、全身が毛で覆われていることを忘れずに。



4. 次は、色を塗っていく。クマの基本色から始めよう。



5. 最後は、濃い暗部、ハイライトの追加で全体を仕上げる。

明暗を付けると、毛皮の質感がしっかり示され、まるでページから飛び出してくるような立体感が出る!



1. 後ろ足で立つクマを描くときには、シンプルにはじめる。頭部の円、体の"ワイヤーフレーム"となるAの文字を描く。必ずポーズの「流れ」を見ること。



2. 体の主要な部位を簡単な形状でラフに描き入れる。頭、首、胴、後脚だ。



3. ラフをガイドにして、残りの部位を描き入れていく。



4. この時点で、ドローイングを薄くする。次は、細部と毛の質感を描く。毛は、束状になっていることを忘れずに。



5. さて次は、色だ。クマの基本色を塗ることから始める。鼻先以外の鼻口部は薄くしておくこと。



6. 最後の手順は、暗部、ハイライト、毛の質感の追加だ。



クマは、イヌと同じくネコ目イヌ亜目に属している。
したがって、クマの鼻と犬の鼻は非常によく似ている。



人間と同じく、クマの前足には指が5本あり、指にはそれぞれ大きなカギ爪が付いている。カギ爪は防御や獲物を倒すためにも使用するが、たいていは好物の根、ウサギの穴、引き潮の時の貝などを掘り起こすために使用している。

後ろ足



グリズリーの足跡をたどると、前にクマが踏んだ足跡の上を歩いていることが分かる。時間が経過するうちに、足跡は地面に深く刻まれ、何年もの間残ることになる。クマは何世代にもわたり、祖先と同じ足跡の上をたどる!

毛を描く

グリズリーの毛皮を描くのは、それほど難しくはない。毛の錯覚を作り出すには、何千本もの毛を一本一本描くことよりも、どこに毛束を描くべきかを知ることの方が大事だ。

右のドローイングには、長い曲線しかない。いくつか、ふさふさした毛束を足すだけで、クマは毛におおわれているように見える。ラインの方向が変わる場所を探そう。その領域に、いくつか毛束を足せばよい。また、グリズリーは背側よりも腹側の方が、ふさふさとしているものだと覚えておこう。



耳の付け根と頭部の両脇にも毛を足す。

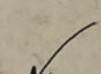


首の下側は、密度高く長い毛が生えている。ここには毛束を多めに足す。



毛を追加するときには、クマの形に沿うようにすること。

腕の上側はスムーズで、下側の方はもじゃもじゃしている。



こうすると、立体感が出る。

腕の形状に沿って毛のハイライトを入れたため、形状と丸さが表現されている。



手首でラインの向きが変わるため、毛束を加える。



クマの腹は、長めの毛がたくさん生えている。





クマの歩き



1. 右前足を出したら、次は左の後ろ足が前方に来る。



2. 左後ろ足が着地すると同時に、左前足が地面から持ち上がる。



3. 前左足が右前脚の向こうを通る。
人間と同じく、クマはかかとまで地面につけて歩く!



4. 左前足が地面に付くと、右後ろ足が地面から離れはじめる。



5. 左前足が着地すると、右後ろ足が持ち上がる。



6. 右後ろ足が着地する直前に、右前足が地面から持ち上がる。



7. 前右足が左脚の横を通り過ぎる。



8. 右前足が着地するときには、左後ろ足が地面を離れ始める。

子グマの走り

1.



2.



3.



4 足歩行の動物は、動きが速ければ速いほど、どの時点においても着地している時間が短い。上の歩きでは、3つ

4.



5.



6.



の足が地面に着いていたのは対照的に、走りになると、地面についている足は、どの時点でも2つ以下だ。